

(様式2)

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 伊豆の国市立大仁小学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	1～6年 426名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 (クラブ) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○障がい者スポーツについての知識を得たり、体験をしたりすることによって、2021年に行われるパラリンピック大会に対する興味関心を高める。
5 取組内容	○「I'm POSSIBLE」(パラリンピックを題材に共生社会への気づきを子どもたちに促す教材)を活用し、パラリンピックの理念について理解した。 ○4年生の総合的な学習の時間の中で、「ボッチャ」を体験した。事前学習として、NHK for schoolの「ハートネットTV『パラマニア』」を視聴し、興味関心を高めた。授業では、選手側、サポートする人の両面を体験し、障がいをもつ人だけでなく、支援者のあり方や思いについても理解を深められるようにした。



○図書室にオリンピック・パラリンピックコーナーを設置し、子どもたちが日頃から、パラリンピックや身近で行われている障がい者スポーツについて興味関心を高められるようにした。



○クラブの活動の中に「ボッチャ」を設定し、異学年の仲間と交流しながら体験する場を設けた。



6 主な成果

・YAMAHA 発動機スポーツ振興財団より講師を招き、「ボッチャ」を実際に体験することを通して、様々な障害者スポーツや、来年度予定されているパラリンピックに対する興味関心を高め、福祉についての学びをふかめることができた。

～子供たちの感想より～

○障がいのある方と楽しめるスポーツがあることを知りました。

○ちょっとした工夫で、皆と一緒に楽しめるようになることに気づきました。

・図書室にオリンピック・パラリンピックコーナーを設置することで、様々な学年の子供たちが書籍を手に取り、興味を高めたり、理解を深めたりすることができた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)

コロナ禍において、活動に様々な制限があったため、工夫した実践は難しい状況だった。

8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none">• 教育課程の中で、どのように位置づけるのか。• 時間の確保• 教材や講師をどのように確保する（探す）のか。
9 来年度以降の 実施予定	今年度実施することができなかった、パラアスリートを中心とした講師による講話や、パラスポーツに関するレクチャー体験を実施したいと考えているが、詳細は未定。